

富山県で初めて発見されたカワヒバリガイ

著者	宮本 望, 布村 昇
雑誌名	富山市科学文化センター研究報告
号	19
ページ	40
発行年	1996-03-25
URL	http://repo.tsm.toyama.toyama.jp/?action=repository_uri&item_id=671

短 報

富山県で初めて発見されたカワヒバリガイ*

宮本 望

〒930 富山市梅沢町1-4-17

布村 昇

富山市科学文化センター

近年、東アジアからわが国の琵琶湖などの淡水域にカワヒバリガイが入り、各地に広がっていることが知られている。従来、富山県で本種の生息が知られていなかったが、この度、射水郡の下条川で初めて記録された。また、わが国には近縁で海産種のコウロエンカワヒバリガイ *Limnoperna fortunei kikuchii* (Habe) の存在も知られているが、今回の標本は前者であることが判明した。

イガイ科 Mytilidae

カワヒバリガイ *Limnoperna fortunei fortunei* (Dunker)

標本：TOYA-Mo 65129~65132

採集地：富山県射水郡小杉町戸破西楠町
下条川高寺橋下流

採集年月日：1995年10月2日

採集者：河合要

水深：1.2m

塩分濃度：1.50-2.60%

生息状況：下条川の確認地点の近辺ではウグイをはじめ、ギンブナ、マハゼ、ウロハゼ、メナダ、ワカサギ、メダカ、シマイサキ、ヒイラギなどの魚類、アメリカザリガニ、テナガエビ、モクズガニ、クロベンケイガニなどの甲殻類、クサガメ等が知られている。

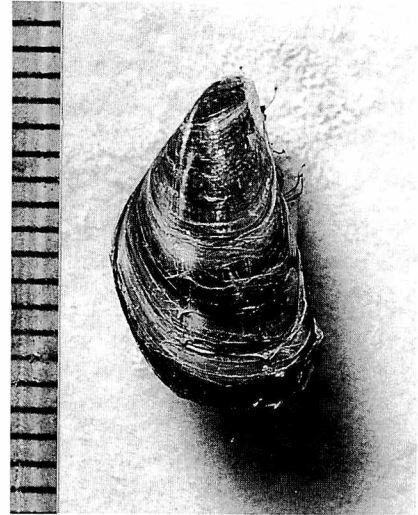
淡水性の動物に混じって海水もしくは汽水性の動物の見られること、県内では非常に少なくなったテナガエビが見られたこと等が特徴であろう。

カワヒバリガイは流木に付着していたものであり、富山新港に入った輸入材や小型船舶から偶発的にはずれ、下条川に流れ込んだものでないかと考えられる。人為による移入や水鳥の脚に付着した可能性もあるが、

考えにくいと思われる。

したがって、本種が下条川に定着している可能性はほとんど無いと言って良い。また、富山県の他の地区でも現在本種の定着は確認されていない。

なお、コウロエンカワヒバリガイの存在も富山湾からは知られていない。



文 献

- Habe, T., 1981. A catalogue of Molluscs of Wakayama Prefecture, their province of Kii, I. Bivalvia, Scaphopoda, and Cephalopoda. Spec. Publ. Seto Mari. Biol. Lab., VII (1)
- 木村妙子, 1994. 日本におけるカワヒバリガイの最も早期の採集記録, ちりぼたん, 25 (2): 34-35.
- 木村妙子, 1994. カワヒバリガイとコロエンカワヒバリガイの形態的な識別点. ちりぼたん, 25 (2): 36-40.
- 木村妙子・田部雅昭, 1995. カワヒバリガイとその亜種. ベントス学会講演要旨
- 中井克樹・新村安雄・山田二郎, 1994. 長良川・揖斐川で発見されたカワヒバリガイの分布状況. 貝雑 53 (2): 139-140.
- 奥谷喬司, 1994. 水産無脊椎動物 (II) 有用有害種. 恒星社恒星閣.
- 奥谷喬司, 1986. 決定版生物大図鑑. 世界文化社.

* 富山市科学文化センター研究業績第166号